

第 15 回 会 議 録

会議名	<input checked="" type="checkbox"/> 編さん委員会 <input type="checkbox"/> 編集委員会 <input type="checkbox"/> _____ 部会
-----	--

令和5年 8月25日	開催場所	中央公民館2階 中会議室 午後1時30分から
出席者・委員	林市長・水谷副市長・宇野教育長・伊藤教育委員会代表・杉浦文化財保護委員会代表・丹小中学校校長会代表・近藤文化協会代表・大平区長会代表・西宮編集委員会代表・寺田教育部長・松永企画部長・山崎総務部長	
事務局	河合課長・井上課長補佐・伊藤・中川	
<p>事務局：会議に先立ちましては、事務局より連絡事項があります。配布資料の「市史編さん委員名簿」において小中学校校長会代表の大橋様から丹様に訂正いたしました。そのため机の上に置いてあります名簿との差し替えをよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、ただいまより第15回知立市史編さん委員会を開催致します。</p> <p>本日、新美委員は、都合により欠席されるとのご連絡をいただいております。従いまして、ご出席の委員は13名中の12名でございます。過半数に達しておりますので、知立市史編さん委員会規程第5条第2項により、本委員会は成立いたします。本委員会の会議録につきましては、各委員名を記入の上、ホームページにて公表いたしますのでご了承いただきますようよろしくお願ひいたします。</p> <p>1 あいさつ</p> <p>林会長：本日はご多用の中、第15回知立市史編さん委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございました。平成20年度にはじまりました市史編さん事業は、SDGsにおける「質の高い教育をみんなに」や「住み続けられるまちづくりを」といった目標にも合致するものとなっております。地域に伝わる歴史や文化等を記録・保存し、後世へ引き継ぐとともに広く周知することで、市民の皆さまの地域に対する理解を深め、過去と現在、未来を結びつけ、これからのまちづくりに役立てることを目的とした事業です。市史の刊行につきましては、『はじめての知立市史』を残すのみとなり、事業として一区切りとなります。しかしながら、収集した資料の整理やデジタルデータ化したものの情報発信と事業内容は続いてまいります。これからも皆さま方のご意見をいただきながら着実に推進してまいりたいと考えておりますので、引き続きご尽力賜りますようお願い申し上げます。本日は、よろしくお願ひいたします。</p> <p>2 委嘱、委員紹介</p>		

事務局：令和5年度より委嘱をお受けいただきました伊藤委員、丹委員、山崎委員には本来であれば、お一人ずつ辞令をお渡しするところではございますが、時間の関係もございますので、誠に恐縮ではございますが、辞令を机上に置かせていただきました。また、委員紹介につきましては、配布資料中の「市史編さん委員会会場図」と「市史編さん委員名簿」によりご確認いただき、紹介とさせていただきますと存じます。

3 報告

(1) 令和4年度活動実績について(資料1)

事務局：資料1をご覧ください。知立市史編集委員会(以下、編集委員会)につきましては、5、7、9、12、1、2、3月と計7回開催いたしました。当初の5月においては、令和3年度刊行予定であった『新編知立市史通史編2 近代・現代』の最終校正を行い、7月に刊行いたしました。また、「仮称ジュニア編」については、令和5年度末刊行に向けて、事務局及び編集委員会において準備を進めてまいりました。本の構成・体裁・書名を検討し、執筆原稿を提出していただき読み合わせ等を行いました。なお、書名につきましては『はじめての知立市史』に決定いたしました。また、その他の活動として市史だより13号の発行、講演会の開催、知立神社、鈴木家文書の目録作成の資料調査を行いました。そしてデジタルデータ化につきましては、前嶋家、前田家、知立神社の資料のデータ化を行いました。

各部会につきましては、考古、古代・中世および近世部会は令和2年度で活動が終了しており、近代・現代部会は『新編知立市史通史編2 近代・現代』の刊行をもって令和4年度で終了いたしました。また、資料1にはございませんが自然、民俗、文化財部会につきましてはすでに終了しております。令和4年度活動実績の報告につきましては以上となります。

林会長：ご質問はございませんか。

委員：特に無し。

林会長：ご質問はないようです。それでは、次の報告事項に移ります。

(2) 令和5年度活動計画について(資料2)

事務局：資料2をご覧ください。まず、編集委員会につきましては年4回開催予定ですが、すでに5月14日に第1回、8月20日に第2回が開催されました。活動計画といたしましては、刊行に向けて最終段階の本の構成、原稿の読み合わせ、校正を進めています。なお、2月までには最終校正を完了し、3月末に刊行を予定しております。また、令和5年8月20日に開催されました編集委員会において『はじめての知立市史』の価格設定についてご検討いただきました。その他、前年度に引き続き資料調査と資料のデジタルデータ化、市史講演会や市史だより14号(最終号)の発刊に向けて進めてまいります。令和5年度活動計画については以上となります。

林会長：ご質問はございませんか。

委員：特に無し。

林会長：ご質問はないようです。それでは、次の報告事項に移ります。

(3) 概要の一部改正について(資料3)

事務局：資料3をご覧ください。「新編知立市史編さん概要(案)」の一部改正につきましては、今年度刊

行を予定しております『はじめての知立市史』の書名変更に伴う改正となります。改正につきましては3ページ「3 編さんの刊行計画」3の二重下線箇所、4ページ「各巻の構成計画」別巻の表中の1段目二重下線箇所、5ページ「刊行計画」表中の二重下線箇所を『仮称ジュニア編（ダイジェスト版）』から『はじめての知立市史』と改正いたします。以上が改正についての報告となります。

林会長：ご質問はございませんか。

委員：特に無し。

林会長：ご質問はないようです。それでは、次の報告事項に移ります。

(4)『はじめての知立市史』の販売価格について(資料4)

事務局：資料4をご覧ください。販売価格を税込み1,000円にするにあたり、コンセプトや必要性を踏まえ、市民の方が手に取りやすい価格とするため、『わたしたちの福岡市史』や『ナゴヤ歴史探検』、国立歴史民俗博物館など公的機関の価格を参考に実際の購入者が手頃に購入できる価格帯といたしました。これをもとに編集委員会でご検討いただきました。委員からは、ページ数100ページ程度でオールカラーであれば十分手に取りやすい価格ではないか、また、税込み800円ではどうかといったご意見もあり、それに対しては安価すぎると本としての価値がなくなるのではないかとご意見いただきました。それらの内容を踏まえ、販売価格税込み1,000円は妥当であるとお見解をいただいたところでございます。販売価格については、以上となります。

林会長：ご質問はございませんか。

委員：特に無し。

林会長：ご質問はないようです。それでは、次の報告事項に移ります。

4 その他

林会長：せっかくの機会でございますので、全体を通してご質問やご意見、ご助言等ございましたらよろしくお願いたします。

西宮委員：編集委員各位の先生方が、ご努力され他の市史に劣らないものを作っているという自負があり、皆さまにぜひ、読んでいただきたい。とりわけ『はじめての知立市史』は『新編知立市史』への入門編であり、簡単に市史の内容がわかるようにと編集作業をしております。そういったものを読んでいただくには、まず、手に取って買っていただく必要があります。普通の本であれば、本屋さんに行くことで、気軽に手に取り、買うことができますが、市史については普通の本屋では置いていない場合が多く、購入までに手間暇がかかってしまうのが現状であります。普通の本と同じように買っていただけるようなシステム作りや販路を拡大できないかと思っております。ぜひ、市でもその点についてお考えいただければと思います。

林会長：ご意見ありがとうございます。事務局にて販路について案はございますか。

事務局：現時点でこれといった案はございませんが、市内の書店など市史を置いてくださるよう交渉していく余地はあるのではないかと考えており、検討している最中であります。

林会長：ありがとうございます。ぜひ、市内の書店などに市史を置いてもらえるように尽力していただければと思います。学校現場ではいかがでしょうか。

宇野委員：学校に置いて披露することはできます。置くことで、保護者と一緒に読んでもらう機会の創出に

つながり、そこから販売につながる可能性は期待できるかもしれません。

西宮委員：私が子どもの頃は、販売物に関する回覧があり、保護者に集金袋を渡し、学校がとりまとめをして購入することができていた記憶があります。そういった販売の仕方を可能であればやっていただけると大変助かります。

宇野委員：学校現場でのチラシ配布や区長回覧での周知はできるとは思いますが、実際、現金を扱うようなことは一切していないものですから、厳しいところでもあります。

伊藤委員：インターネットでの販売はどうでしょうか。

事務局：インターネットの販売については手数料や在庫管理の委託など検討しなければならないことがあり、現実的には厳しいところでもあります。

林会長：例えばLINEで注文を受けるといったことはいかがでしょうか。

副市長：決済の問題がでてきてしまいます。

西宮委員：書誌情報が特定できる文字列であり、書籍の取引等に活用されているISBN(国際標準図書番号)を付けてみてはといった意見が編集委員会にてでしたが、それを取得すると営利になってしまい市史との折り合いが難しくなってしまいます。ISBNについては、事務局で預かっていただいて、検討していただいております。

林会長：できるだけ、多くの人に手に取っていただけるように進めていければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。他に何かございますか。

委員：特に無し。

林会長：それでは、事務局にお返しいたします。

事務局：ありがとうございました。それでは終わりに先立ちまして、事務局より2点ご連絡がございます。まず、1点目は編さん委員会につきましては、今年度が最終年度となります。したがって、第2回編さん委員会の開催を令和6年3月22日(金)の午前10時からで予定しております。正式に日程等決まりましたらご案内させていただきますので、ご承知おきくださいますようお願い申し上げます。2点目といたしましては、配布させていただきました歴史民俗資料館のチラシをご覧ください。市史の研究成果を絡めた形で、ミニ企画展として今年度新たに購入いたしました徳川家康家臣の松平家忠という人物の日記の写本である『戸尹記』を展示しております。現在、放送中の大河ドラマ「どうする家康」と絡めまして、「どうする家康」が放送する内容を予測いたしまして週替わりで日記の写本の展示箇所と展示説明を変更しております。ただいま、第2週目の展示替えを行って公開しており9月17日まで毎週楽しめるような形で展示しておりますので、ご都合の良い日にご来館していただけますと幸いです。

林会長：週替わりというのは、例えば今週の日曜日に「どうする家康」が放送されますが、その内容ということでしょうか。

事務局：今週の日曜日に放送される内容を事前に学芸員で予測して展示替えをします。『戸尹記』は徳川家康が生きていた時代の一日一日における徳川家康の家臣が聞いたこと、みたこと、感じたことがつらつらと書かれているものになります。そのため内容の予測が可能であり、解説文や図版とともに紹介している形になります。先週の日曜日は小牧・長久手の激闘が放送されたと思います。『戸尹記』には岩崎之口の戦いについての記述がありましたので、その箇所の記述を翻刻し説明と現地の写真を小牧・長久手の戦いについて放送される前に先取りして展示をして紹介しました。

林 会 長 : LINEでの周知は行っているのでしょうか。

事 務 局 : 本日、8月25日(金)の午後5時にするようにしております。また、X(旧 Twitter)ではすでに情報解禁をしております。また、チラシにつきまして少し怖い感じに仕上がってしまいました。写っているおじさんは歴史民俗資料館に展示されている人形になり、撮影場所も歴史民俗資料館になります。

杉浦委員 : 次回、お万の方が再登場するみたいですが日記には出てこないのですか。

事 務 局 : お万自体は出てこないが、お万ゆかりの人物はでてまいります。その人物と松平家忠との関係性についての記述があります。そちらについては、準備中でございます。

最後に『はじめての知立市史』が最終巻となりますので、改めてこれまでの市史の価格等が載っているリーフレットをお配りさせていただきましたので参考としていただければ幸いです。

それでは、これをもちまして第15回知立市史編さん委員会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。